

# 経ヶ岬 灯台



## 経ヶ岬灯台（きょうがみさきとうだい）

灯台 1 基、旧第二物置 1 棟、附・旧便所 1 棟

所在地：京都府京丹後市丹後町袖志小字経ヶ岬

所有者：国（海上保安庁）

重要文化財（建造物）令和 4 年 12 月 12 日 指定

経ヶ岬灯台は、明治 29 年 12 月 24 日に起工、明治 31 年 11 月 30 日に竣工、同年 12 月 25 日初点灯した第一等レンズを備える洋式灯台です。石造の灯塔・付属舎に金属製の灯籠が載り、高さは 13.7m です。日清戦争後の海運助成の拡大により、日本海沿岸では明治後期から灯台の整備が進み、経ヶ岬灯台もその時期に建てられました。重いレンズを水銀で浮かせて回転を容易にする水銀槽式回転装置を導入した最初期の事例で、これによりレンズの光力増大と閃光方式の多様化が可能になりました。

### 灯台の要・レンズあれこれ

#### 第一等レンズ

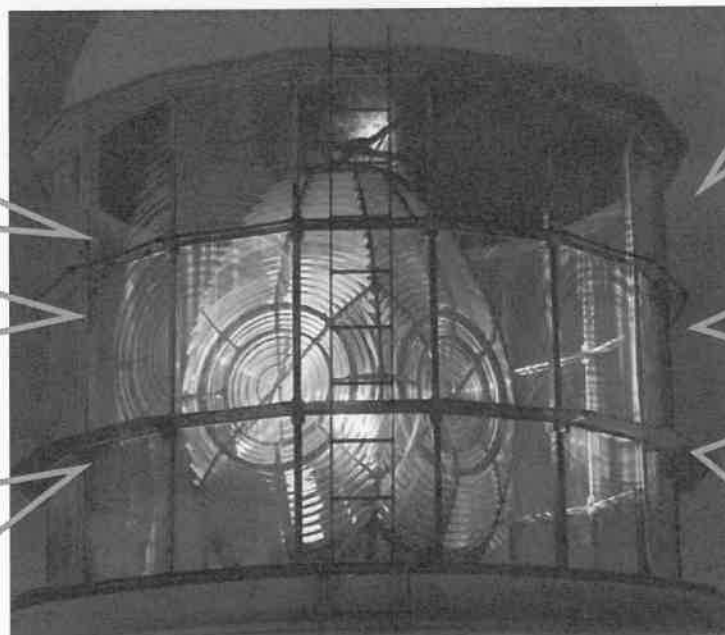
一番大きいサイズのレンズ。高さ 2.59m

#### フレネル式レンズ

フランスで発明された、多数のプリズムを枠にはめた特殊なレンズ

#### フランス ソテール社製

当時、国内ではフレネル式レンズを製造できなかったため、フランスから輸入していた



#### 3面レンズ

灯光を発する面が 3 面あるレンズ  
→ 20 秒に 1 回、3 閃光を発する

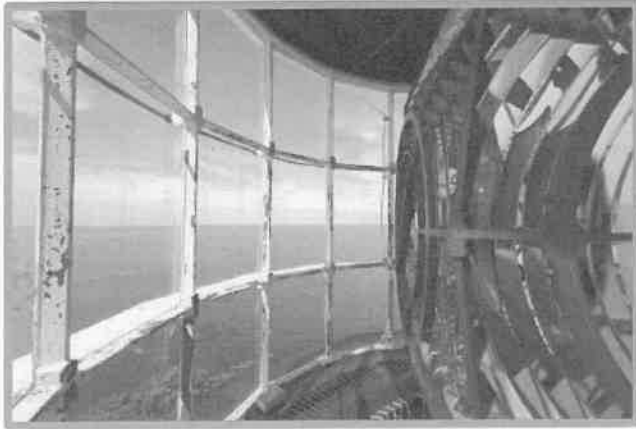
#### 灯高 とうこう 148m

海面から灯火までの高さ。建設当時国内で最も高いクラス

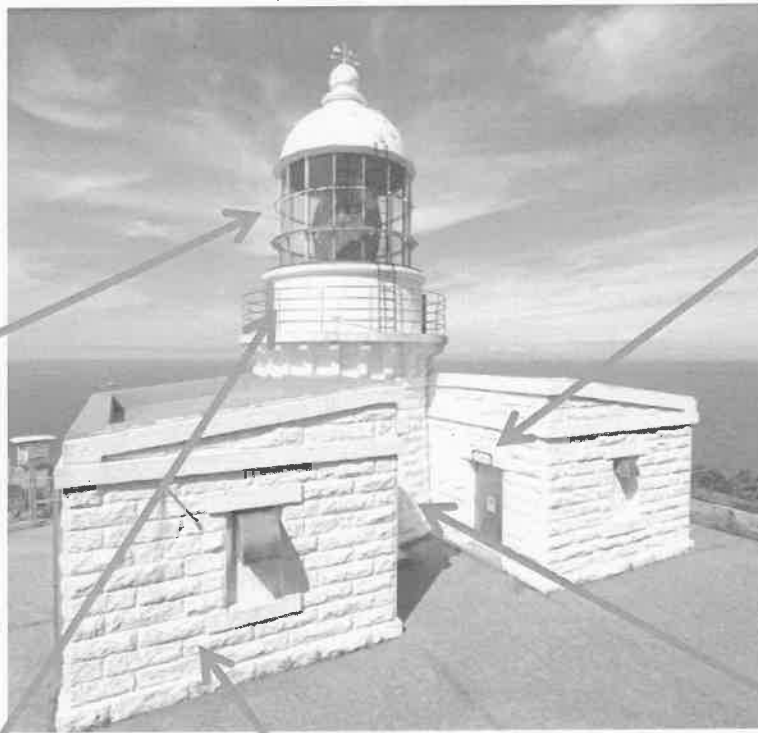
#### 光達距離 こうたつきより

#### 22海里（約41km）

灯光がどこまで達するかの距離。建設当時は 29.5 海里（約 55km）で、国内で最も長いクラス



**灯籠**とうろう 「玻璃板（はりはん）」と呼ばれるガラス窓に金属製のドーム屋根を載せる



**付属舎**ふぞくしゃ

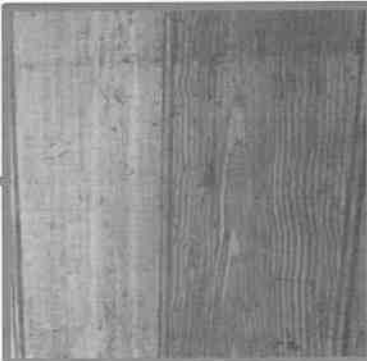


**銘板**めいばん 初点灯の年月を記す



**水銀槽式回転装置**すいぎんそうしきかいてんそうち

フランス発明された、水銀の浮力を利用してレンズを回転させる装置。経ヶ岬灯台では明治30年にフランスから購入し、国内で最初期に取り入れた



**木目塗り**もくめぬり

灯台内部の壁板は、板の表面に塗装して木目を描いていた

**灯塔**とうとう

灯台の塔の部分。内部に階段と分銅筒（ふんどうつつ）を設ける。建設当時は錘（おもり）でレンズを回転させていた



**旧第一物置**（右）  
**旧便所**（左）

石造で、灯台と同時に整備されたもの